

松本平の誇り舞台で

来年に市内の演劇関係者「初は死なず」上演



「初は死なず」制作発表会
台本を手に、作品への思いを語る演出の本山さん

松本市などで活動する市民劇団、大学演劇部、市民有志らは来年3月22、23日、多田加助らを題材にした舞台「初(もみ)は死なず」―貞享義民悲願二斗五升―を、同市深志三のまつもと市民芸術館ホールで上演する。松本市制施行100周年記念事業のうち、「市民提案イベント」の最後を飾る大作だ。

信大演劇部OB「やまなみ会」を中心に、員、市内のアマチュア劇団員らでつくる実行委員会と芸術館が主催する。台本は柳裕さん(79、安曇野市明科)、演出は本山正さん(76、同市豊科)。1686(貞享3)年に凶作で苦しむ農民を救おうと、松本藩に年貢軽減を直訴し、処刑された中萱村(今の安曇野市三郷)の多田加助らの姿を描いた。エキストラを含め総勢約120人が出演する予定で、一般からの公募も検討している。

制作発表会は21日、松本市のあがたの森文化会館で開き、制作統括責任者の中野和朗・松本大学長らは「今の

日本人に必要なメッセージが、込められている」と、作品の素晴らしいさをアピールした。柳さんは「批判精神を持つだけでなく、行動に移したところが、加助たちのすごさ」、本山さんは「この地でなければ作れない。松本平の誇りを再認識するきっかけになれば」と話した。

(松尾尚久)



松本市制施行100周年

まつもと
100彩まつもと魅力満タン

市民劇団や大学演劇部 「初は死なず」上演へ

松本地方の市民劇団や大学演劇部などが来年三月、まつもと市民芸術館(松本市深志三)で演劇「初(もみ)は死なず」の公演をすることになり、関係者が二十一日、松本市あがたの森文化会館で制作発表会を開いた。松本市制施行百周年記念の「市民提案イベント」の一つ。江戸時代、年貢軽減を求める一揆を起して処刑された多田加助の物語を上演する。

「貞享騒動」 テーマに 市民公募も検討

信大演劇部OBの「やまなみ会」を中心に、松本大学演劇部などで行く実行委員会と芸術館が主催。やまなみ会代表で、公演の総指揮を

務める映画監督熊井啓之(安曇野市三郷明盛)の凶作の年に年貢が引き上げられ、庄屋の加助らが年貢軽減などを松本藩に訴えた。これを機に大規模な一揆が起き、加助ら



松本市制100周年



演劇「初は死なず」について説明する実行委員会メンバー

主導者二十八人が処刑された。劇ではこの「貞享(じょうきょう)騒動」を振り返り、農民を救うため戦った加助らの生き方を紹介する。演出を担当する本山正さん(76)は安曇野市豊科高家には発表会で「加助ら

らの貴い志は松本平の誇りとして後世に伝えられた。家族の命を懸けても一揆を起した精神的な背景、根底に流れる思想などを追究しながら演出したい」と語った。公演は来年三月二十三日、二十四日。劇団員や市民有志ら約百二十人が出演予定で、一般市民の公募も検討している。